

式 辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、木立にさえざる小鳥の声にも春の訪れを感じさせる今日の佳き日に、本校一回生で宝塚市議会議員 石倉 加代子様はじめ、本校にゆかりのある多くの方々のご臨席を賜り、平成29年度兵庫県立宝塚高等学校卒業証書授与式を挙行できますことはこの上ない喜びです。只今、272名の卒業生に卒業証書を授与いたしました。53回生の皆さん、卒業おめでとうございます。

3年前の入学式での皆さんの表情がいまでも目に浮かびます。緊張しつつも、期待と希望に満ちあふれていました。先生方や友人と出会い、多くのことを学び経験して成長していく様子は、非常に頼もしく、学業のみならず部活動や学校行事にも全力で取り組む姿は、私の誇りであり、エネルギーの源でした。私にとっても今日は特別の思いで皆さんの前に立っています。

今年度、本校は創立55周年を迎えました。そして卒業生の数は皆さんを含めて、18247名になりました。皆さんは先輩たちが積み上げ、築いた県宝の伝統を引き継ぎ、後輩へとバトンタッチする役目をしっかり果たし、今ここにいます。人生の大きな夢や目標とともに、新しい世界へ向けて期待に胸を膨らませていることと思います。

今社会は、環境問題、エネルギー問題、少子高齢化、気象変化や自然災害など多くの課題を抱えています。またAI（人工知能）の進化やIoT（Internet of Things）とされていますが、全てのもものがインターネットにつながる事により、職業や雇用、生活までもが変化していくという未知の課題にも直面しています。皆さんは、自分の周りにどんな変化があらうと、どんな困難なことが立ちまわっていても、人間としてしっかり生きていかなければなりません。

教育理念を「人づくりの県宝」として、本校では、学業と学校行事などの体験活動、部活動等をバランスよく行い、将来社会人として生きていくための基礎力を身につけて欲しいとの思いで教育活動を行ってきました。

県宝で学んだことを、応用し活用する中で、さらに自分を伸ばし、人間的な魅力を増やして大人になっていって欲しいと強く願っています。常々お話ししていたことですが、「考え続ける」ということを、餞（はなむけ）の言葉とします。常に「人間として本当にこれでいいのか」と自分自身に問いかけて、すぐに答えがでなくても、悩みながら常に「考え」て「よりよい自分を求め」学び続けてください。そして、考える際には、自分と他との関係を大切にしてください。他とは、家族、友人、先輩・後輩、近所の人、自分の周りの人そして自分の周りのものすべてです。人間は一人では生きていけません。何かやり遂げようと思ったら、絶対に一人ではできません。心のよりどころとなる人やものに支えられて生きています。そして自分も他の誰かの支えになっているはずです。このような関係を築くには何が必要でしょうか。このことも皆さんにはいつも「考え続けて」欲しいと思います。

終わりになりましたが、保護者の皆さまには、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。また、本校の教育活動に関し、ご理解とご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん、県宝生として本校で学び、生活したことを誇りにこれからの人生を歩んでください。教職員一同、皆さんが夢を実現し信頼される立派な大人として、社会や地域に貢献してくれることを、そして、県宝の良き応援団として本校を見守ってくださることを願っています。皆さんの輝かしい前途に幸多かれと祈念し、式辞といたします。

平成30年2月28日

兵庫県立宝塚高等学校長 下野 厚子